

# TRAIL-RUNNING FORUM 2016

## 報告4 DESSERT /参加者の声・午前

大会当日に参加された方々から多くの意見、感想をいただきました、これは午前に行われた**スピーチ、討論会**についての内容です。

みなさんのお考えを「組織のあり方・3団体について」「行政・地域への対応」「ルール&マナー」「トレランとは」「フォーラム全体の感想」「その他」に分けました。

### 組織のあり方・3団体について

・競技者、運営団体の各々の立場を明確化し、なれあいではない統一団体を作りましょう。立場が違えば目指すものや意見が違って当たり前。まずはトレイルランナーの育成や教育、安全の普及、山のクリーンUPや整備を担い、社会的に影響のある組織が必要です。ナショナルセンター確立は賛成です。国からの資金協力を得て、世界と戦う競技者を出していきたいです。アスリート団体として確立し、一般への普及ができれば、社会的に認知されるしっかりしたスポーツとも言えるでしょう。NEWSで言われぬ様なスポーツにしていきたいです。FTRで汗かきます。みなさん、よろしくです。

・トレイルランナーズ協会とトレイルランニング会議の関係性及び役割の違いが今ひとつ分からなかった。なぜ一つの組織にまとめられないのか、まとめるとしたらどんな問題が起こるのかを考える必要もあるのかなど。また行政との関係という意味では、協会内に行政の方もいてもいいし、行政の方ももっとトレイルランニングや山について学ぶ機会があった方がいいと思った。

・組織としてはITRA配下、競技としてのルール等もITRAで統一化してほしい。マナーに関しては鎌倉を参考にロードランナーも含めて作成すべき。

## 組織のあり方・3団体について

・協会に所属しない団体、選手が問題を引き起こしていることが「問題」かと思います。そういう事実に対して、協会としてどう対応していくつもりですか？

・日本トレイルランニング会議・宮地様のお考えを聞いて。貴重なお話を難うございました。行政側からの視点を持ち、連携が必要な行政とのコネクションが作れる組織を作り、法整備などを助長していくことだと思いますが、日本トレイルランナーズ協会との連携はどのようにされていくのか。法に準拠するのであれば、下位になりそうだが、対等な意見交流はできるのか。また、陸連のような指導者制度が作られても一般愛好家の趣向とは乖離すると思うのですが、どう計画されるのか？

・トレイルランニングが市民権を確立するために、組織が必要ということが理解出来た。また行政という背景がある中で、トレラン（陸連的）、スカイランニング（岳連的）という2つの方向性があることも理解出来た。競技人口が急増し、ファッション的にとらえている人が増え、マナー低下。ここに歯止めをどうかけるかが課題。

・各団体、外向けにどんなPRできているか疑問。どうも内向きでメディアまかせな印象です。

・望むこと。1) 統一組織によるマナー指導の徹底。2) 大会参加者資格の制度化（協会員のみ、研修を受けた者のみ、など）。3) 誰にでも出来る競技にすべきでないと思う（大会のキャパシティに限度あり）。

・今までトレイルランニングに関する組織がなかった事を知らなかったが、それだけトレランが世間に認知されてきたという事であり、組織の必要性についてよく理解できました。

具体的にいつ頃に何を決め、いつ頃までにどう確立して、いつ頃までにどう広めていくか、ある程度スケジュールや方法は検討されているのでしょうか。

・組織と私達ランナーはもっと関係を深く出来ないか？ 行政へアピールに使う事は出来ないか。

・各団体での役割分担（各得意分野で）の必要性を感じる。日体協→オリンピックの件は、トレラン愛好者が望んでいる方向なのか疑問。まずは義務・権利の確立が先ではないか？

## 組織のあり方・3団体について

- ・趣味と競技の融合。自由と競技（制限）の融合。競技と文化の融合。（うまく融合できるのか？）いろいろとむずかしいですね。
- ・今まで自由に走ってきて、組織化…ということを考えてことはありませんでしたが、「山を自由に走る権利」を持つため組織化が必要であることを感じました。自分たちの権利を守り、かつ同じフィールドで遊ぶ他者との共存のため自分事（他人事ではなく）として今後の成り行きを見守って行きたいと思いました。
- ・トレイルランナーズ協会とトレイルランニング会議の目指す方向について、二者が統合できるのか？という点。「協会」の方はトレイルランニングを市民レベルで認めてもらう（マナーなどの整備等）をまず主眼としているのに対し、「会議」の方は競技として認めてもらう志向が強いと思いました。まず何をやるかという点で、まだ立ち位置がだいぶ異なるような印象です。
- ・トレラン協会としてトレラン会議、スカイランニングの連動、協調が不可欠と感じた。
- ・情報収集できる場が少なく、口コミが有力な中、公式団体の公式発表があると良いと思う。
- ・日本トレイルランナーズ協会と日本トレイルランニング協会は別組織ですよ？HPにはありますが、今いち組織の住み分けがわかりません。
- ・日本トレイルランニング協会（JTRA）という団体もありますが、まったく言及されませんでした。構成メンバーは日本トレイルランニング会議と一部かさなるようです。これはなぜでしょうか？
- ・スカイランニングはトレイルランニングの一部だと思っています。できれば組織をまとめて行くのが良いのではないのでしょうか？
- ・①何で組織がバラバラなの？利害がどこで相反しているの？②トレイルを共有する「ハイカー」「MTB」の団体とかともコミュニケーションとった方がいいのでは？

## 組織のあり方・3団体について

- ・協会内での今後の方向性がいまひとつ不明確であり、フォーラムを開催する段階ではなかったように思える。（現段階では非公開での協会内打合せの段階です）討論会が討論になっておらずもったいない。
- ・トレイルランニングの魅力「多様性」と「自由さ」を大切にしながらも、組織として確立していけることを望みます！！
- ・日本トレイルランニング会議、日本スカイランニング協会が、組織として一定の方向に進んでいるのに対し、日本トレイルランナーズ協会はまだまだ組織としての形が見えないと感じた。
- ・トレランの組織として「会議」「協会」とありますが、行政への働きかけや、ルール作り等、相互に共通する項目があると思います。行政やメディアへ提言、広めていくに当たり、2つの組織で明確な区切りや役割の違いはあるのでしょうか？
- ・競技団体を作り競技志向が強くなることにより、現在トレイルランニングを楽しむ方々が、業界の中心では無くなって来ると思います。若い選手、足が速いランナーが増えてきます。それはみなさんが目指していることなのではないでしょうか？
- ・日本トレイルランニング会議と日本トレイルランナーズ協会が一緒になり、トレランがキケンなスポーツではないという認識になり、若い方、学生の方もトレランをはじめやすいようになればいいと思います。
- ・メジャースポーツになってしまった以上、ALL統一団体は必要だと思います。トレラン関係者の器の大きさが試されている時が来たと思います。
- ・日本トレイルランナーズ協会と日本トレイルランニング会議の一本化が必要と思われる。役割分担ではなく、合体しないと分かりにくい。SKYランニング協会含めて3団体の合体！
- ・3団体のお考えが整理されて、よく理解できました。また、得手不得手もわかりました。今後の調整に期待します。
- ・3団体いっしょにやりましょう。

## 組織のあり方・3団体について

・3組織の立場や違いがよくわかりました。すでにそうされていると思いますが、ディスカッションとコミュニケーションをいっぱいとられて、協力し合ってください。

・未来のためには統一組織は必要。“若い力”を前に出して欲しい。  
「協会」と「会議」は一本化し、組織と運営をスムーズにした方が良い。  
スポーツ庁公認のスポーツとなると嬉しい。

・競技者として、愛好家（ファンラン）として、トレランを楽しみ続けられるトレランナーを守る団体のあり方を望みます。

・行政の力を借りるためにも、3つの組織が協力し合えるものであってほしい。3権分立のように、それぞれの組織ごとに役割分けて、監視しつつ、活性化できればよいと思う。

・各協会のあり方については、今回の討論会で理解できましたが、一般の人から見れば、その違いは全く理解できないのではないかと思います。競技のカテゴリーの考え方はともかく、うまいことやっていただき、良い環境が作れればと思います。

・「大同団結」の必要性和「多様性、自由さ」のバランスをとることができれば良いのですが…。難しいですかね。組織としての情報発信も大事ですね。

・協会、会議、それぞれの特性、強みを生かし、Trailrunの発展のために協力する体制を確率する方向に進むことを期待します。

・トレイルランニングを今後も楽しんでいきたい!! 共存できて安全で楽しめる様、組織を確立してほしいです!!

・協会、会議、スカイランニングの様々な立ち位置は理解出来ました。今後のトレラン発展の為の各々の役割分担を構築して頂きたいと考えます。

・三団体が統一した組織を目指してほしい。「日本トレイルランナー・スカイランナー協会」。

## 組織のあり方・3団体について

・トレイルランニングとスカイランニングの競技性は違うが、フィールドは同じだと思うので、協力していった方が良いと思う。ハイカーとの関係性はこれからの課題でもありと考えさせられます。基本はルールとマナーが大事だと思う。

・それぞれの立ち位置が明確になりました。本来これらをまとめる組織は必要ではないかと思いますが、現状の体制での“大同小異”、発展を願います。

・トレイルランナーズ協会、会議、スカイランニング協会、3組織の得意分野の相互共有、役割分担、今後の流れを実感することができた。良い方向へ持っていけるように、枠組みづくりを進めて、互いの違いを認め合える流れに期待したい。

・トレイルランニングとスカイランニングが大同団結しつつ、互いの個性を失わない未来に期待したい。

・3つの組織が役割分担を分けて、協力して、トレイルランニングを文化として醸成してほしい。（一緒になれるのであればなおよい）

・三団体が一緒に協力して今後のトレランの発展に期待しています。マナーを守ることはいちばん大切なことです。最低限のルールですよ！

・トレイルランニングの愛好者は爆発的に増えているが、組織設立については黎明期だと思う。この時期にこのような状況になるのは、どの様なことも同じ。お互いの共通点は多々あるので、話し合いの中で、早く大同団結して欲しい。

・現在の流れを考えると、やはり情報共有、対外的折衝への窓口が必要なタイミング。コンセンサスを取るのは大事&課題だが、ワク作りとしてはまず大きな一歩だと思う。

・異なる組織の方たちが一堂に会して話し合う機会に参加できて光栄です。トレイルランニングが認知され、行政等の理解が大切であることを切実に思いました。注目をあびるということは競技者に自覚と責任をもって取り組むことが求められると思います。正しい普及について、自分もアンテナを高くして勉強したいです。

## 組織のあり方・3団体について

- ・日本トレイルランナーズ協会と日本トレイルランニング会議、スカイランニングが、がっちりタッグを組んで日本のトレイルが良くなるように進めて欲しいです。私たちが守るべきマナー等をもっと発信して頂きたいです。

- ・トレイルランニング、スカイランニングを考える上でのリスク面、マナー一面は共通すると感じる。各々の団体だからではなく、ベクトルを同じくし、今後の発展や認知向上に取り組むべきだと感じた。

- ・3団体が各々「捨てるべき小異」を考えなければひとつにまとめるのは無理。

- ・今までグレーゾーンで進んできた部分がようやくきちんと話し合われてきたのがうれしいです。

- ・「小異を捨てて大同に着く」。杉本さんの言葉が印象的でした。

- ・パネリスト所属組織について、目指すもの、違いがよく理解出来ました。次回、フォーラムが行われることがあれば、各組織における議論の成果を発表して頂けたらと思います。

- ・様々なフェイズ、立場からの発表で参考になりました。それぞれに持っているノウハウを共有する場をもっと多く設けてほしい。

- ・トレラン協会とランナーの目指すべき関係性はどのようにお考えですか？

- ・「協会」は大会／競技以外の視点を重視して活動すればよいのでは？（包括的な団体としての融合が理想）。「スカイラン協会」と「会議」が競技団体、競技以外の部分も含めて包括するのが「協会」。

- ・協会に質問です。日体協に入る、オリンピックを目指すに関して、二択で答えるとしたら賛成？反対？

- ・政治や行政との関わりの重要性が良くわかったし大切な事だと思う。対してマスコミをうまく活用出来ない現実があり不要な敵を増やしている。まずはトレラン界の団結は重要だし、それに加えてハイカーその他との共有、そのための山の情報の統一が必要だと思う。

## 行政・地域への対応

- ・ 行政配下の各種制度で多様性と自由を守れるのか疑問。旧来の行政指導の枠組みではなく「トレランの新たな価値創造」のための仕組みを考える「非営利の組織」が必要だと思う。
- ・ 対行政に対しては環境、地域活性、健康（体力づくり）、3本柱を主としてreputationをさげて行く。 \*Reputationからのアプローチではなく現場から。
- ・ 「行政」を考える時、環境部門、スポーツ部門、地域活性化部門は意見が異なるので別々に考えた方が良いと思います。陸連か山岳かは、スポンサーが獲得しやすい方にするという考えもあるのではないのでしょうか。
- ・ 地域のニーズにあった課題を解決するツールとして「トレラン」が合致した時にレースやイベントが成功して、地域活性化につながりました。
- ・ 今後、行政はさらにトレランの規制をつよくなるつもりでしょうか？それを防ぐために、協会や会議が発足されたのは分かるのですが、今後、大会などが減っていかないか、トレイルで走れる場所が少なくなっていくのではないかとということが不安です。

## ルール&マナー

・RUNNINGの延長として気軽に足を踏み入れられるスポーツであるからこそ、明確なルールとマナーの提示と浸透させる仕組み作りが必要だと感じます。

・私は登山から経験したため、マナーや共通ルールをある程度理解できていますが、そうでない方も多いと思います。セミナー、勉強会を通じてマナーを徹底すべきと考えます。また、レース出場資格にこれを取り込んではいかがでしょうか！

・公認大会用のルールは統一した方が良いと思う。

・協会に環境、山のマナー、ルール、大会開催のガイドラインを作っているのと同様に、個人レベルでの山と向き合い方や、山のスキルアップに努める義務があると思う。

・協会に所属しない団体、選手が問題を引き起こしていることが「問題」かと思います。そういう事実に対して、協会としてどう対応していくつもりですか？

・トレランを始めたばかりなので、どのお話もとても勉強になりました。初心者でも分かるルールブックがあれば良いなと思いました。

・鎌倉トレイルのルールの話ですが、トレイルランナーは周知され始めましたが、自然の起伏を利用したトレーニングの為に走るロードランナーには知られてないのが現状だと思います。ハイカーにとってはトレイルランナーもロードランナーも区別は無いと思います。この様なロードランナーへの注意喚起も必要になると思います。

・これからトレイルランニングを始める人達に対してマナーやルールについて協会や会議についてHPや広報紙で知らせてほしい。

・スピーチ中にカシャカシャ音を立ててスマホで撮影するマナーが他の部分にも波及しているのではないかと感じました。各自のマナーが問われている様に感じます。自戒を込めて。

・大会の運営のルール、選手・ランナーとしてのルール、これからの統一指針を期待しています。

## ルール&マナー

・統一したフィールド、ルールを決められる他のスポーツと異なり、競技団体として1つになるのは難しいかも。とは言え、権利を守るためにも統一団体で最低限のマナーを知らしめる資格制のようなものも必要かも。サッカーでは講習だけで経験がなくても取得できるコーチ資格があります。コーチは指導というより、むしろグッドプレイヤーを育てることに重きが置かれてます。

・ルールとマナーの徹底。RUNNINGの延長として気軽に足を踏み入れられるスポーツであるからこそ、明確なルールとマナーの提示と浸透させる仕組み作りが必要だと感じます。

・トレイルランニングを始めてまだ半年も経っていませんが、これまで走ってきたランナーさんも含めこれから始めようとしているランナーさんへの指導、情報共有というのが大変重要であるという事を認識する事ができました。

ガイドラインがあるようですが、今はあいまいさもあるとの事で自分を含めしっかり考慮しランナー同士で共有していけたらと思いました。

・何事もマナーとルールが大切だと感じました。

・競技性の違いがどのようというよりフィールドとして、自然、アウトドア、トレイルなどの活用する人々の全体マナー、ルールを広く啓蒙する事が重要だと改めて思いました。全てはコミュニケーションからはじまると思います。

・大会の出場条件に今まで参加した大会の距離やポイントなどの条件はあるが、それに加えて自らの命を守るためにも最低限の応急処置方の経験の有無や大会での講習をする事が必要なのではないのでしょうか。

・安全対策とマナー状況で市民権を得るのが大事だと思います。

・トレイルは大会に参加するだけでしたが、今日の午前中の討論会で勉強させていただき良かったと思います。やはりマナー、ルールは大事ですね。

・トレイルランニングは多様性と自由だが良いと思いますが。車社会にもルールがあるように、楽しくトレランを走れるようにルールが必要であります。

## ルール&マナー

- ・一般のトレイルランナーへのマナー啓発をより広く大きく行っていく必要があると思います。ハイカーへそのような姿を見せることで見方も変わってくるのではと思います。
- ・装備を整えるところからがトレイルランの楽しさの1つだと思います。しかし私を含めて未熟なランナーも多く、そのようなランナーに対する教育の意味も含めて必携品の提示が必要だと思います。
- ・軽装でなくても「重量」を決めてトレイルを走らせられないのか
- ・陸連登録のように、選手の登録制度を設けていいのでは。その中で啓蒙活動を試みてはどうか。「指導制度」のお話にあった、必要な知識（救急、ロープワーク、etc）の普及にも力を入れてほしい。
- ・安全面や環境への配慮、役割分担の中で、大同団結していく事が必要。その中では、山を走る知識や規律（ルールやマナー）の共有化を施す必要がある。また、その為には、行政との協調も必要不可欠ですね。共感です。
- ・トレイルランナーの権利を守るより、ハイカーの権利や山の自然を守る努力が必要です。
- ・環境、安全等の考え方や、運営等にも協力体制は必要だと思うが、本質的には違いがあるのではないかなと感じた。トレイルは社会性、環境、安全、自然、楽しさ、ふれあいが大切で、その部分が大好きです。マナーと行政の問題は、今後も重要だと思いますが、協力で良いのではないかなあ？

## トレランとは

・ルールも大切ですが、トレランのベースであるカルチャーが広まらないと何かとてもつまらないアクティビティになりそうですね。

・競技化する必要はない。オリンピックも必要ナシ。

・一流スポーツにしていくためには、やはり競技としての共通の理解、定義を設けることは必須だと思います。また若年層、とくに20代、10代の競技者育成に力を入れる前に、この世界（山岳スポーツ）に入りやすい環境作りも必要では？例えばエントリー代、道具など金銭面、アクセス、指導法・者。

・トレランの定義について、鏑木さんの意見に賛成です。自由にコンセンサスのとれた中で競技を楽しめるのが理想です。正直、クロカン、スカランニング等バリエーションが増えてついていけません。

・トレランを”競技”とすると記録や勝敗を意識したものとなり、とても息苦しく感じます。”オリンピックに向けて、スポーツが金メダルや新記録などの”一番を取るための苦しい修業のように、そして勝つことを目標、それも日本のためにするものになっていくのはとてもこわいです。トレランは（スポーツも）楽しく、一人ひとりの力量にあわせてできるものとして育ててほしいと思います。何人かの登山愛好家の方からのトレランを批判する声をききました。マナー向上はとても大切と思います。

・以下の日本の自然国土の特性からトレラン、スカイランは日本にふさわしい活動なので国家的な競技になっていくことを望んでいる。国家の約7割が山地山岳地域。国家の約7割が森林。固有種豊かな生物多様性。人と自然の深い関係の歴史。

・トレイルランニングの定義は広くとりレベル1、2、3で運営する方法はどうかと。

・トレイルランニングの定義、概念の明確化が必要です。まずはそれが第一歩だと感じました。

## トレランとは

- ・高山帯にいても安全な地帯ばかりならトレラン？ ピークハントのつもりが途中で引き回したらスカイランニングではない？ スカイランニングの山へのアプローチはトレラン？

- ・討論会の後半で議論となった「トレイルランニング」の定義が印象的でした。トレイルランニングの多様性、自由さを残していくためにも、いい意味で曖昧さを残す言葉とした方が良いと思います。一般的にも「トレイルランニング」のイメージはできれば良いイメージを定着させていく事が大切なのではないかと感じました。

- ・トレイルランニングの健全な発展の為には他のスポーツの歴史も活用すべき。

- ・トレイルランニングそのもののメリットもアピールする必要があると思います。（競技人口が長い、メンタルヘルスが好影響、自然への興味）。トレイルランニングの良さはやってみないとわからないではなく、心身へのメリットがあると医学的エビデンスもメディアで取り上げて頂き、門戸を広げ競技人口が増えていく事を願っています。そのためには安全基準の策定は重要なもだとわかりました。

- ・トレラン愛好者以外の見方を増やさないとこの競技は続かなくなるのでは・・・もっと政治的な行動も必要かと。

- ・自分自身がトレイルに魅力を感じている理由が競技のおもしろみだけでなく文化も含めてあるという事がわかりました。松本さんの「定義」と「将来性」にかんする質問がとても鋭いと感じました。「文化」であれば予め定義する必要はありませんが、組織化をするのであれば重要な論点かと思います。

- ・トレイルランニング愛好者が共通認識・共通教育が広まって、これからトレランを始める人に伝えていく流れを作っていきたい。

- ・トレイルランニングを文化に！ 行政ありきではなく自然と人ありきで！

- ・自分にとってのトレランは、競技指向ではなく、自然とふれあう、自身の解放を目的にしたものです。そういった意味ではトレラン＝カルチャーととらえています。

## トレランとは

・スカイランニングとトレイルランニングのそれぞれの定義について理解しましたが、実際大会に出てみるとごちゃ混ぜになっているような気がしています。はっきりと切り分ける事は難しいのではないかと感じました。

・トレイルランニングは広い意味を持っており、その中の1種目としてスカイランニングがあるとの説明が理解し易い。よって共通性もあるし、違う方向もある、競技性が強い面があるのがスカイランニング。

・森林マラソンは何なのでしょう。

・広辞苑に「トレラン」を載せることが、重要と思いました。

・スポーツとしてまだまだ未熟な「トレラン」はどこに進もうとしているのか？ 一般の方に分かり易く説明しやすくする「言葉」「目標」が必要。それがあれば様々な「誤解」なども解決できるのでは？

・競技団体という言葉に違和感を感じた。トレイルランニングは独自性、自由などで表現させる文化だと思う。統一したフィールドでのルールの話は非常に共感できた。

・はじめてトレランレースに出た人が、「これって登山じゃん」という声があった。トレランで幅広く定義するとレースコースで誤解をしてしまうと思う。（高低図なんて見ない人いるし）ゲームに例えると、トレランはスーパーマリオのような横スクロールのゲーム。スカイランニングは縦スクロールの登るゲーム。

・最後の松本大さんの言葉がわかりやすかった。フィールドの使い方は、やっぱり大切なんだという事は良くわかりました。でも根本は違うのかな？

・駆けるほど人や町が幸せになるカルチャーに(^\_^)  
better trail, better future

## フォーラム全体の感想

- ・午前中のディスカッションで3団体それぞれの共通した価値観をベースに見事なグラフに表した山西先生！素晴らしいと思いました。まだまだ発展途上の競技ですが、生涯スポーツとして皆が楽しめるように地方からも発信したいと思います。
- ・大変勉強になりました。色々な観点の意見を聞けました。あと各意見の共有場にいられて有意義な時間をありがとうございました。
- ・目指す道をしっかりとお願いします。「頑張れ」というだけでなく、自分たちも一緒に動くこと、大事にしていきましょう。
- ・雑誌や参加させて頂いた大会等でバラバラに個々に入ってきた知識がつながる良いスピーチ、討論会でした。ありがとうございました。
- ・過去の歴史の中で大変ご苦労であったことと、現状、未来へのトレイルランニング、スカイランニングへの展望、不安もわかりました。まだ風当たりが強いスポーツをいかに周りを味方につけて応援してくれるものにするかは我々競技者1人1人の力にかかっているかもしれません。協会に任せきりにしてはいけないと思います。
- ・日本におけるトレランの現状、組織化の経緯を良く理解できた。日本のトレランの未来について午後に期待したい。
- ・今後人口が増加していくトレイルランニングを取り巻く環境の課題を認識できました。マナーの周知と向上が重要と考えます。[疑問]トレラントクロスカントリーの違いは？
- ・内容が濃くて、来て良かったと思いました。いろんな立場の方から、いろんな話を聞けて、今後、自分なりに考える材料になりました。
- ・様々な人の言葉でトレイルランニングを語ってもらえたので認識を新たにできた。
- ・愛好者としての関わりだけでなく、大きな視点を提示して頂いたと思います。とてもよい機会でした。

## フォーラム全体の感想

- ・大会に参加する以外で自分としては何か出来る事を考え一つでも多くの盛り上げる仲間であらうと思えました。
- ・トレランの歴史は思ったより浅かったので驚きました。トレラン、スカイランニングの概念の違いなど勉強になりました。今後のトレランの発展のためには行政との結びつきも重要と感じました。今後の展望としてオリンピック競技になることを願います。ありがとうございました。
- ・討論会に人の話を聞かない人と呼んではいけないと思えました。競技と趣味・文化としてのトレイルランニングの違いはわけて、話がききたいと思う。
- ・これだけたくさんの方が集まった熱気に驚いた。ただ熱心な人の意見ばかりだと偏りがち、オリンピックを目指すのとはちがう魅力がトレランのよさかな。（鍋木さんの言うリフレッシュなど）
- ・各人がそれぞれの立場で主張していて、まとまった感じがなかった。
- ・「もし、私が〇〇だったら」という考え方が重要だと思った。例：大会主催者だったら、ハイカーだったら、など。
- ・スピーチの時間が長過ぎる(内容的には10分でよいのではないか)。
- ・トレイルランニングを盛り上げたい。
- ・午前中のお話、行政の問題、トレランの位置づけなど一つの大会を行う楽しさ再認識しました。携帯を落として大変だったので。
- ・ここでの方針決定と拡散が重要。
- ・トレランも、山を共有するスポーツ。登山、ハイキングを愛する人々と、組織が将来的には手を取りあい、理解をしよう。いずれオリンピック競技になればよいと思う。10年後でも20年後でも、夢です。
- ・「トレラン」の「権利と義務」を守る為に、自分自身にできることをやっいていこうと思えました。

## フォーラム全体の感想

・トレラン業界は、まだ未成熟なところがある反面、伸びしろも多いにあるなと感じました。協会の確立や、世間への周知、ランナーのマナー向上など、これからの課題は多くあると思いますが、今後業界が良い意味で盛り上がっていくといいです。

・こういった討論会が公開された場で開催されることの意義は非常に大きいと感じました。各代表の方の意見を直に聞いたのが良かった。松本さんの質問を受けての石川さんの意見に同意。目指す形は鍋木さんと一緒。統一した団体となったほうがよい。「違い」を掘り進めるのではなく「共通」のものを見つけてほしい。

・山野をフィールドとする各組織の現状、目指す未来がお伺いでき、大変有意義な機会でした。ただ、これからは本格的な普及段階となるが故に、各組織がしっかりと“同じ未来”を描いた上で、力強く着実に進んでほしい。期待しています！

・各団体の違いについて良くわかりました。そして、トレイルにおいての問題も良くわかりました。とても為になります。今後も続けて頂きたいです。

・トレイルのおかれている立場がわかりました。進展を期待しています。

・日本の山の魅力を世界に見せるために、良い協会や良い大会ができればと思っています。

・国内でもうまく共存を！ 海外のウルトラトレイルレースと国内のレースのクオリティーの違いについて、国内はAIDが充実していて優しすぎるところがありますが、日本のおもてなしのよさを残してしばりを厳しくしてもよいかと感じました

## その他

- ・トレランの大会参加料が高い大会もあるよね。大会運営の収支は公開されないの？
- ・トレランの大会運営ってもうかるの。
- ・ボランティア同士のスキルアップや情報交換が出来ないか今さぐっています。大会運営に左右される事なくボランティア交流が出来ないかと
- ・トレイルランニングの歩みの中で石川弘樹さんの2007年のアメリカの100マイルグランドスラム優勝の話もしてもらいたかったです。歴史歴な大偉業だと思います。
- ・日本以外のアジアエリアで行われているメジャーな大会に目を向けてみると周辺国の参加者を多く取り組んでいるように感じます。  
欧米のオーガナイザーを加えて周辺諸国と一体の大会を行う国々  
それに対して人口も多く国内のみで活動、運営で成り立つ現状の日本を踏まえたくて国内大会の国際交流についても考えてみたいです。
- ・インバウンド施策として日本のトレイルランニングをどう考えるか
- ・スカイランニングという競技を初めて知りました。トレランをはじめて間もないですが、どのようなものなのか自分で調べて少し興味があれば参加してみたいです。
- ・スカイランニングは標高の高い所でやるトレランだと思っていました。
- ・スカイランナーの方は普通の登山道で練習されているんですか？
- ・ぜひオリンピック！日本のトレイルで。
- ・モニタリングについて具体的方法、評価方法を早く知りたい。
- ・ITRA基準のポイントを国内大会にも適用して欲しい。
- ・山西代表のお話にもあった、競技の前のゲーム段階、教育、子供が遊ぶものとしての山の環境が整備されることが、アウトドアスポーツの発展にもなりそうだと思います。

